

山口勝弘ビデオ彫刻アーカイブ事業

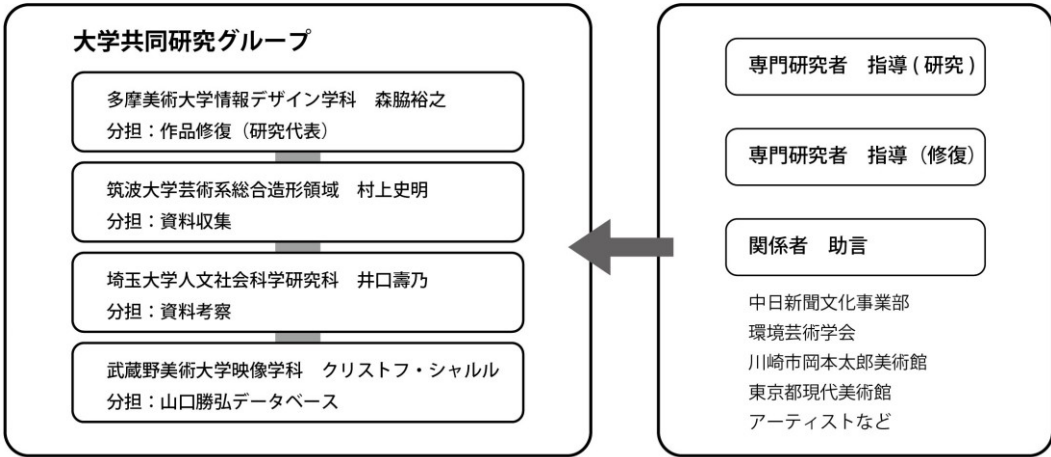
学校法人 多摩美術大学

概要／課題

メディアアートの元祖と呼ばれる山口勝弘は、淡路島の一宮町（現 淡路市）に創作アトリエ「山勝工場」を建設し、同地で行政とともに「環境芸術村」構想を推進しようとした。没後、ここに往年の作品が保管されたままになっており、その劣化が危惧されている。本事業では、「山勝工場」に保管されている遺作を調査し、修復・復元展示を行い、そのプロセスをマニュアル化することで、再現展示可能な状態で後世に受け継がれるように取り組んだ。

体制／手法

「山口勝弘ビデオ彫刻アーカイブ研究グループ」は、多摩美術大学を研究代表として、4大学（武蔵野美術大学、埼玉大学、筑波大学）で組織する研究グループである。山口勝弘と関係の深い構成メンバーで、分担しながら研究課題に取り組む。また、山口勝弘と関係の深かった、美術館学芸員、評論家、芸術家などを招いてシンポジウムを開催するなど情報を得る活動を行う。



成果

（成果物）

- ・ 山口勝弘ビデオ彫刻作品「コラム」（1988年制作）の修復
- ・ 「名古屋国際ビエンナーレARTEC」のアーカイブおよび目録の作成
- ・ メディアアート形成の編年史の作成

（公開方法）

- ・ 成果物の公開、再展示を横田茂ギャラリーにて開催
「VIDEO SPECTACLE 2022 ～山口勝弘ビデオ彫刻作品展示～」

・ 展覧会概要

令和3年度文化庁メディア芸術アーカイブ推進事業成果発表として、山口勝弘のビデオ彫刻作品《コラム》の再現展示を開催します。

《コラム》は《アーチ》*1、《ザンピーニ》とともに、1988年に銀座の佐谷画廊で開催された山口勝弘展「ビデオイメージと建築について」に出品された作品です。

山口勝弘は、著書『映像空間創造』*2を著すなど、都市空間における映像がもたらす作用について、建築と映像の融合を試みてきました。それは生涯にわたって取り組んだ「環境芸術」を示すものでもありました。今日のように、日常的に映像あふれる都市風景の原点は、このような預言的ともいえる探求の数々によって成立してきたのでしょうか。

本展では、日本のメディアアートの原点であり、山口勝弘も運営に尽力した「名古屋国際ビエンナーレARTEC」の資料アーカイブ展示も行います。

*1 2019年度文化庁メディア芸術アーカイブ推進事業にて修復完了済み

*2 山口勝弘著『映像空間創造』美術出版社 1987年

・ 開催概要

展示期間： 1月31日(月) ～ 2月4日(金)

開廊時間：11:00 ～ 17:00

会場：横田茂ギャラリー

主催：山口勝弘ビデオ彫刻アーカイブ研究グループ

（多摩美術大学、筑波大学、武蔵野美術大学、埼玉大学）

協力：横田茂ギャラリー、東京パブリッシングハウス

・ 関連トークショー タイトル：「山口勝弘の環境芸術」

ゲスト：伊藤隆道（造形作家・東京藝術大学名誉教授）

TPHの特設展覧会ページにてオンライン配信

http://www.artbook-tph.com/tph/yamaguchi_videospectacle.html

1月31日より2月26日までアーカイブ配信

（残された課題）

- ・ 映像メディア作品の使用機器の確保、およびメディア変換についての問題。
現在は、ブラウン管テレビから液晶テレビへの変換と、映像データのデジタルキャプチャを進めている
- ・ 過去の作品映像のアーカイブ公開に際して、著作権許諾が困難。
現在は、アーカイブ作業を実行しつつ、目録データの公開を想定している。
ARTEC資料（43箱）のデジタルアーカイブ化を目標とする。
（現在、映像資料100%、紙媒体・写真等約1／3）

（文化的・社会的・経済的な意義）

- ・ 以下内容を取りまとめたレポートの作成
 - ・ 映像インスタレーションやタイムベースド・メディアの保護と伝承のガイドライン策定
 - ・ 黎明期のメディアアート作品の位置づけを再評価して体系化
- ・ アーカイブ資料について、メディアアートを専攻する学生の教材資料として活用